

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス あおぞら		公表日		令和 7 年 2 月 25 日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			・基準上は適切。勤務状況や活動状況によって人手が足りない時は、他部署からの応援を依頼している。 ・利用児を定員まで増やすには職員がもっと必要である。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			・ソフトウェア面でさらに工夫できる余地あり。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			・活動によっては使いづらさみられる。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			・活動によっては部屋を分けて落ち着いた環境で取り組めるように環境を整えている。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。		○		・決定事項の共有であることが多く、全職員の参画の機会は少ない。 ・一人一人が共有する意識を持ち、連携を取りながら、より密に情報共有していく必要がある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			・保護者向けの評価表を公表するだけでなく、業務改善につなげていく必要がある。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		○		・毎日の朝礼や定期的なミーティング等、情報共有を行っている。 ・必要に応じて職員面談を実施しているが、不十分。職員の声を偏りなく聞き、業務改善に繋げていく必要がある。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・法人内で定期的に研修会が開催されている。事業所内においても研修会の開催や、外部講師による療育指導の機会を確保している。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			・カンファレンス等の開催を通して、より共通理解の下、検討していかなければならない。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			・さらに共有する工夫は必要。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・心理士によるアセスメントは必要に応じて実施し、内容の共有を図っている。	・こども一人ひとりの行動や考えをもっと把握し、大切にしていける取り組みが必要。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		○		<ul style="list-style-type: none"> ・立案は担任に任せっきりになってしまっている。 ・チームで立案や打ち合わせを行うことでより良い物になると思う。 →今後、打ち合わせなどの機会を設け、チームで検討していく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・固定化しないように工夫している。	・設定活動の立案についても、チームで行えるような体制づくりが必要。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・活動の前までに必ず打ち合わせを行うようにしている。細かい打ち合わせができるよう心掛けその状況に合わせて個別に打ち合わせをする時もある。	<ul style="list-style-type: none"> ・打ち合わせする機会はあるが、不十分さあり。 ・必要な情報はこまめに丁寧に共有する。 →打ち合わせの体制を充実させ、よりチームで連携を図っていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○	・その日の振り返りは送迎等ある為、中々できないが、気づいた点などはなるべく伝えたり、聞いたりするよう心掛けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの話をする機会はあるが不十分。 ・送迎や次の準備に追われて時間が作れていない。 →毎回の振り返りの機会を設定し、確実に次の支援に活かしていく。送迎等で不在の職員にも内容を共有する（記録や口頭にて）。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・主に児童発達支援管理責任者が参画している。	<ul style="list-style-type: none"> ・直接こどもの様子観察も行うが、担任への聞き取りや記録情報が主になっている。 ・今後は、職員体制も整ってきたため、児童発達支援管理責任者と担任で参画していく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・あおぞら主催で年に2回、就学前相談会を開催し、関係機関で就学への移行を支援している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		・地域の児童発達支援センターと、必要に応じた情報共有等は行っている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		・今後、そのような機会を設けたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・園への送迎が多く、直接保護者と情報共有する機会は少ないが、連絡帳や電話等でのやり取りを行っている。自宅への送迎時には、直接のやりとりの機会がある。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			<ul style="list-style-type: none"> ・研修会の開催はあるが、頻度が少ない。 ・今後、家族支援にも力を入れるように、現在事務所内で検討中である。 	

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○				
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○				
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○				
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○				
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○			・家族（兄弟含む）参加やイベント見学中の保護者同士の交流を目的に、夏祭り、みかん狩り、クリスマス会といったイベントを開催している。頻度や内容については、さらに検討が必要。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○				
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○			・月報（みつばち通信）を保護者に提供している。	・HP、SNS等は活用できていない。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○				
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○				
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○			・今後、検討が必要。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○				・マニュアルはあるが、訓練は実施できていない。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○				
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○				
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○		・保護者に必ず確認した上で、子どもに対応している。	・保護者への確認のみで、医師の指示書に基づく対応としては不十分。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○				
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○				
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。		○			・内容の共有、再発防止策は講じているが、文書（事例）の作成・保管に取り組めていない。 ・発生事案は記録化し、再発防止へ取り組んでいく必要あり。 ・ヒヤリハット対策の導入を検討してほしい。 →2024年度中に体制として整え、導入予定。再発防止を徹底していく。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。		○			・虐待防止に関する研修会の予定はあるが、年間計画が作成、共有されていない。 →年間計画を作成・共有し、計画に沿った実施をしていく。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。		○			・身体拘束が必要な事案は、特に生じていない。 必要時に、職員間で検討し、子どもや保護者に了承を得た上で、支援計画に盛り込んでいく。	